

寒河江市学校施設整備計画改定（案）
及び寒河江市立新中学校施設整備基本構想（案）説明会 質疑応答

会場：ハートフルセンター 日時：令和7年3月8日（土）10時から11時30分 参加人数：40名 出席者：教育長 学校教育課長（兼）学校再編整備室長 みらい協働課長 学校再編整備室 室長補佐 学校再編整備室 係長 アジア航測
（発言者A） 年寄りなものですから、カタカナ言葉に弱くて、寒河江市立新中学校施設整備基本構想（案）のなかの、「ウェルビーイング」とはどういうことかご説明お願いしたいのですが。
（教育長） 「ウェルビーイング」についてですが、「人それぞれが、幸せや生きがいを将来にわたり感じることができ、そして、個人個人だけじゃなくて地域や社会もそうした豊かさや幸せを感じられるような、より良い状態」をウェルビーイングという言葉で表しております。国や県の教育振興計画でもウェルビーイングということが、重要なポイントになっているところでございます。
（発言者A） ありがとうございます。今のご説明、ずいぶん長くなるようですが、日本語で短く書けるということがないんでしょうかね。寒河江市民の方、全部がこういう言葉ご存じなのかわかりませんけども。 それから、中学校の統合問題が何年か後になるわけですが、私は、そういう時代は見ないで済むんだと思いますが、子どもたちが遠いところに通うのに大変だなと、この問題が始まった頃から考えておりました。個性を伸ばすこともいろいろと書いてありますが、400人、10学級の中で、個性を伸ばすというのは、教員も大変だなと思います。小規模校、むしろ、パブリックコメントやっと覚えたので、出してやりましたが、小規模校を増やした方が、私たちの育った時代から見ると、教員と子どもとのつながりというのは、ずっといつまでも続いているし、個性を伸ばすということについて、人数が多いよりは、むしろ少ない方がいいんじゃないか、そういう考え方を常にもっているのですが、そこら辺もご考慮お願いしたいと思います。
（教育長） 1点目のウェルビーイングについてですが、なかなか日本語でひと言で表すのは難しいので、きちんと意味が伝わるような表記についても配慮していきたいと思います。 それから、小規模校の方がいいのではないかとすることは、一昨年からの説

明会でもいろいろご意見をいただいております。小規模の良さもありますし、大規模の良さもあるということだと思います。小規模での個性の伸長、大規模での個性の伸長、それぞれやり方はちょっと違うかもしれませんが、さきほどの説明の中でも申しあげましたように、授業の中での一人一人の学びを重視しておりますので、そうしたことから個性の伸長ということをしきんとやっていかなければならないと思います。 小規模校の方がいいのではないかというご意見もありますが、中学校時代には、大規模の中でいろいろな人との関わりの中で育てほしいというご意見もいただいております。そうしたことも考え、現在の計画となっておりますが、小規模の良さもいかしていけるような配慮は、当然必要であると考えております。
(発言者B) 今、陵東中学校のところから、ほなみ団地に行く道路が工事されていますが、都市計画の方で、陵東中から寒河江工業の方へ、T字路になるわけですね、そこから新しく道路が計画されていると思いますが、この最有力G-2のところでは、道路を切る予定があったと思いますが、それはどうなりますか。
(みらい協働課長) みらい協働課です。土地利用、都市計画を担当しております。ただいまお話にあった都市計画道路、落衣島線といいますが、そちらの道路については現計画ではGの2を通るような形で計画されております。ただ、寒河江市の都市計画を方向付ける計画がございます。都市計画マスタープランと言います。その計画において、G-2を通るそばに、柴橋平塩線がございます。そちらの整備を行っております。現在の都市計画マスタープランにおいて2本もその部分に道路が必要ではないのではないかというご意見がございます。見直しを図る方向の整理にしております。最終的には、国とかの認可をいただかないといけないので、最終的には決定していないことではありますが、現計画において、そこは見直しをして、現在整備中の道路に付け替えたいという考えでおりますので、そちらの方は変更になるかなと考えております。以上です。
(発言者C) 一つお聞きしたい点があります。中学校を一つにするのはわかるのですが、その他の老朽化した中学校はその後どういう形になるのかと思ひまして、単純に疑問です。よろしくお願いします。
(学校教育課長) ご質問ありがとうございます。統合後の中学校跡地については、現在、河北病院と市立病院の統合の候補地の1つになっておりまして、西村山広域事務組合の消防本部も移転を検討中であります。それらの候補になるのかなと思ひます。
(発言者C) その中学校がなくなった地域がさびしくなる観点はもっているのですが、例えば、JAも統合して支所がなくなったわけですよ、そうしたら周りがすごくさびしく感じる。そういうにぎわいの観点でどうなのかなと、効率的に中学

校を1つすれば税金もかからないし、市民の負担も少なくなるかもしれませんが、寒河江だけでなく、地方にもある程度人がいるわけだから、賑わいということを考えればどうかと思うのですが、そのあたりどうでしょうか。

（みらい協働課長）

現在、市内9地区においてワークショップを開催しております。このワークショップについては、現在、市が計画しております振興計画、都市計画マスタープラン、これらが令和7年度末で計画満了を迎えるということで、7年度以降の寒河江市をどういう形にしていくのか、整備を行っていくのか、みなさんで話し合っていたきたい、みなさんのお知恵を借りたい、ということでワークショップを開催しております。今お話にあったようなことが、各地区のワークショップにおいて課題という形で、ご意見を頂戴しております。都市計画については、具体的な計画については、この先の話になりますが、そのワークショップでいただいた声を踏まえ、今後の計画づくりにいかしてまいりたい。1つの方策として、みなさんの方からだされた意見としましては、現在、中学校の跡地であるとか、小学校の跡地であるとか、こうしたところを拠点として活用できないかといったご意見も頂戴しておりますので、そういった点も踏まえまして、今後のまちづくりに生かしていきたいと考えておりますので、ご了解いただきたいと思います。

（発言者C）

わかりました。だけでも少ない人数のご意見あったかもしれませんが、あった方がいいのかなと私は思うんですけども、みなさんどうでしょうか。

（教育長）

学校関係の方から申しあげますと、最初にも説明しましたように、令和4年3月の計画では、高松小、白岩小、醍醐小を統合、そして、三泉小、西根小も統合して、そのあと、その2校を再度統合する、つまり、5校を1校にする計画でした。そういった中で、小学校は地域との結びつきが強いわけですので、そういうことを大事にしていかなければならないのではないかとということもありまして、最初の計画よりは、現計画では小学校を残していく方向でできております。最近の新聞でも、いろんな町で小学校が1つになる統合計画が報道されていますが、そうした面では、寒河江市においては、地元の小学校を大事にしながらという方向でこの計画を考えてきたという状況です。

（発言者A）

西部地区の学校とか、三泉と西根とか、ずっと前から話があったんですが、三泉と醍醐小は近いわけですね。そこを一緒にできないのかと言ったら、学区制があると言われました。学区なんていうのは、中学校を1つにするくらいなら、寒河江地区全体を東部地区だ、西部地区と言わないで学区制を変えることはできないかな。三泉の子が西根に行ってもなく、また学校が新しくなる。何年後かになるか、近々みたいですが、そういう学区制を取っ払って、今中部小学校とか生徒が多くなって困っているとか話を聞くので、本楯の方も大変なんだとか話を聞いておりますので、そういうことはできないのでしょうか。自分たちの行きたい学校に行く、学区制を取っ払えば、こっちの学校に

やりたい、そういう自由な考え方もできると思いますし、中学校が1つになってしまうえば、この中にあるお互いの切磋琢磨とか、学校対抗の行事がなくなってしまうわけですね。同じ中学校を1つにすると、900人、1000人、10学級の中で、果たして同学年の中で一人の先生が数学を担当するのか、したら、10学級、個別指導なんていうのは、とてもじゃないけど、私は昔、教員をしていたものですから、50人の学級をもったことあるんですが、とてもとても個別指導の徹底はできませんでした。今はタブレットなんて道具を使わせているみたいですが、あれで本当に一人一人に指導できるのか、新しい機械でわかりませんが、今社会問題になっております SNS ですか、何とか、犯罪の問題とか、不登校の子どもが増えやしないか、喜んで学校に行くように書いてありましたが、本当にそういう風になるのだろうか、友達関係とかいろんな問題も出てくると思います。先生自体もうつ病になったり、学級問題があって教員不足もあるのに、話がまとまりません。問題は、逆にどんどん増えていくのではないかと思います。前から話があったように、どうしても統合したいのであれば、2つに分けてほしいとか、後ろの方をみたら、校歌から何かから新しく作る計画まで、ほとんどできてしまっているんですね。こんな分厚い資料を作っているのですから、何を言ってももうだめなんだろうかと、半分あきらめもあるんですが、私があこの世にいてからは、どうなっているかわかりませんが、子どもたち大変だなと思っているところです。学区制にどこまでもこだわりをもたないといけないのか、そこが1つ疑問です。

(教育長)

今の学区制を取っ払って、行きたい学校に行けるようにしたらということがありましたが、そうすると次の年度の数人がどれくらいになるか、なかなか分からないということとか、いろんな問題があって難しいと思います。寒河江市でも今お話しがありましたように、寒河江中部小学校の人数が増えております。来年度は700名をこえる人数になる見込みです。寒河江中部小学区から例えば、寒河江小学校や柴橋小、南部小へ通学したい場合は、申請を受けて、それを認めております。今、市内で数十人のお子さんがそうしたことで学区外の小学校に通学しています。距離の関係などからも、柔軟性はもたせております。

大規模、小規模でも基本的に1クラスの人数は変わりませんし、大規模になれば教員の人数も増えます。そうした場合、例えば1学年を社会科教員が一人でもつということではなく、数名でもつことになると思います。そうした中で、お互いに先生方が教材研究などを深めて、よりよい授業ができるということもあると思います。私が陵南の校長しているときには、週1回、授業の空き時間を数学の先生は数学の先生で、時間をあわせて時間割の中に教科部会を入れて話し合う時間をつくり、こういう資料を使ったらどうだろうかなど、授業の改善に力を入れてまいりました。その成果もでていたと思います。統合中学校では、大規模のメリットをいかしながらやっていきたいと思っています。

私は柴橋出身ですが、柴橋中学校が寒河江中学校と統合して陵南中学校となりました。最初は名目統合ということで、柴橋と寒河江に別れて授業をやっていました。今の陵南中学校の校舎には、2年生になるときに入りました。柴

橋は2クラスでしたが、陵南中学校に入って8クラスと増えました。いろいろな今まで全然知らなかった人たちと友達になって、たくさん刺激を受けて、中学校生活を送ってきたなと思います。大規模になれば、不登校とか、いじめとか、目が届かなくなるんじゃないかとかのご心配はあると思いますが、そうしたことへの対応についても十分に配慮しながら、学校運営を行っていくようにしていきたいと思います。
(発言者 D) お話を聞きまして、だいたい G2 の候補地で進めるとお聞きしたわけですが、寒河江高等学校のグラウンドを用地として、県の教育委員会がどう判断するかというときに、その辺、内々で話を通していると思うのですが、そこら辺の見通しはどういう風になるのでしょうか。 それと、どのような手続きを経て寒河江市に払い下げをすることになるのか、お聞きしたいと思います。 もう1つ、資料 G-2、41 ページを見てみますと面積的には、6万9千㎡とありますが、寒河江高校グラウンドの他に買収が必要になってくるかと思うのですが、その辺は、グラウンドにプラスして買収が必要になってくるのか。道路で横断される格好にはならないと思うのですが、どういう風に考えているのか教えていただければと思います。
(学校教育課長) 県とは、去年の夏頃から可能性の1つとして事務担当で打合せをさせていただいております。今年の2月6日ですが、正式に要望書を提出したところです。 県では、市に譲渡するには、議会の議決が必要となります。それを受けて、市で買うということになります。 用地の面積につきましては、寒河江高校のグラウンド、4万7000㎡くらいですが、今、話をしました譲渡に関してどうなるかはっきり決まっておりませんので、詳細な面積につきましては、さきほどもお話しましたが、学校施設整備基本計画でお示ししたいと思います。
(発言者 D) 県の方はまだ正式にはわからないということですが、ここまで公表して、新聞にも載る段階だと、相当な確信をもっているような気がします。今さらひっくり返ってしまうと、寒河江市とんでもない恥をかくわけですから、要望しています、本当に実現するのかしないのかわかりません、こういう話でしょ。どの程度確信をもっているのか、内々でOKもらっているんだという話なのか、その辺について、お聞きしたかった。
(学校教育課長) 内々に OK をもらっているとかではなく、正式には県へ要望中ではありますが、強く県に要望しておりますので、県でも検討いただいているものと考えております。
(発言者 E) ありがとうございます。今日のご説明はとくに大きな目指す教育と用地、

その説明が主だったかなと思います。これだけの厚い資料の中は、施設整備、ハードな面の一番大事などこを立地条件にするかというご説明がポイントだと思うのですが、全体の話聞いて感じたこと、これからのお願いを申しあげたいと思います。

この頃、日曜日ですかね、教育をテーマにしたテレビドラマがあって、本県出身の方がアドバイザーとして参加されていて、そのドラマの中では、教育の現場でおきているいろんなことを、リアルに表現されていて、視聴率も高く、ご覧になっている方もすごく多いようなんです。夢を描く、昔の学園ドラマではなく、今現実に起きている教育の現場、それをどういう風に先生方が、あるいは、子どもたちが取り組んでいるか、その姿を思い浮かべた時に、一番最初に教育の基本的な考え方、説明いただきましたが、夢ではなく本当にここに書いてあるようなことを実現していけば、あのドラマのような夢ではない現実として、一人一人の子どもが大切に、一人もとりこぼさずに、そして、自分で考えて、そんな子どもたちをつくっていきたいという想いがシートに書かれているんだなと思って、改めてすばらしい基本構想（案）が用意されているんだなと思い、うれしく思いました。ただ、これが、別に新しい学校を建てなくても実現できないわけではないわけじゃないですか、ソフトの面では。といったときに、でも、それは現実ままならなくて、学校に行けない子どもたちがたくさんいるんだよということですよ。寒河江にも不登校の子いらっしゃるって。そしたら考えることは、新しい学校にするとときにゼロからスタートではないから、今抱えている現実の問題をどういう風に、この新しい学校でできるのか、チャンスととらえて、取り組んでいくのかということが、すごく大切ではないかと思いました。ゼロからのスタートではない、今の現実の課題を行政があるいは教育関係者、保護者の皆さんを巻き込んだ形で、基本構想に書いてあることを実現するにはどうしたらいいのかを準備していただく必要があるのではないかと思います。今後の進め方の最初のシートで、校歌とか準備委員会を立ち上げるということでしたが、どういう内容がやりとりされるのかわかりませんが、どういうテーマかわかりませんが、ハードではないソフトの面について、盛り込みながらぜひ準備を進めていただきたいと思います。進め方ですが、例えば、こういう説明会をして聞きました、あるいはワークショップをして意見を聞きました、その聞き取る、情報を吸い上げる方法はとてもすばらしいと思うのですが、1回ではなくやりとりをする、巻き込んだ形で、市として、教育委員会として検討して、こうですよというやり取りを何度かして、進めていただきたい。そして、そういうやりとりを 市民のみなさんにわかりやすい形で公表して行ってほしいと思います。インターネット、ホームページに掲載していますと言っても、なかなか見られないし、さきほどウェルビーイングって何ですかとご質問ありましたが、たしかに説明しないとわからない言葉、それをみんなに、お年の方、年代とか、あるいは、いろんな難しい言葉わからない方などいらっしゃると思いますので、市長が公開討論会でしたかね、今、世界では幸福度という言葉がブームですけども言われていましたが、そういう伝える相手に、どういう風に言ったら相手に伝わるのか、そういうやりとりをする上での、市民目線、誰も一人も取りこぼさずとい

う気持ちがあるとそういう説明もわかりやすくなるのかなと思いますので、準備を進めて行く中でご検討いただければなと思います。

(教育長)

今後のことも含めてご意見ありがとうございます。夢と現実とはなかなか一致しない部分もあるわけですが、夢をもって、現実と夢を近づけていくということが必要であると思います。今のお話にもありましたが、新しい中学校ができるから、そこから何か新しいものがスタートではなくて、日々子どもたちは毎日学んでいるわけですので、今のうちから、いろいろなことも当然やっております。例えば、さきほどの不登校の問題に関しては、小学校も中学校も全国的に増えていますが、寒河江市内でも増えている状況にあります。そこで、今年度から市内の中学校に一人ずつ担当の教育相談員を配置しました。主に教員OBの人ですけども、その方をお願いして、教室になかなか入れない子どもたちが、少し自由な中で勉強したり、いろんな活動ができる別室をつくって、そこで活動したり勉強したりしています。朝何時からということではなくて、自分が来られる時間帯にきて、勉強や活動をしています。相談員の方には、そのサポートをしていただいています。

また、現在、来年度予算を議会で検討してもらっているわけですが、不登校の子どもさんの保護者の話を聞くと、どこにどう相談したらよいかよくわからないという声がたくさんあります。これまでも教育委員会や学校でも相談を受けてきたわけですが、来年度、教育と福祉の両面の専門的な力のある、いわゆるスクールソーシャルワーカーを市で1人採用して、そうした保護者の方や子どもにたちへの対応にあたっていただきたいと思っております。

また、寒河江市では、寒陵スクールということで、文化センターの勤労青少年ホームに1室設けまして、なかなか学校に通えない子どもさんたちが通える「居場所」として開設しております。現在は午前中のみの開設ですけども、なかなか朝起きられない子どもさんもありますし、起立性調節障害という場合もあります。そこで来年度から、午後も開設する形でやっていこうと考えています。

また、各学校では、コロナの時は、子どもたち同士のいろいろな活動ができなかったわけです。学校の教育課程で言うと、そうした行事とか話し合いを、特別活動という言い方をしますが、そうした特別活動を学校の中で積極的に計画して取り組んでいってほしいと学校をお願いしております。そうした中で、子どもたちが仲間と一緒に同じものを目指して、合唱であったり、またはクラスマッチ、そうした中で達成感や共同でみんなと一緒にやる喜びを実感できるような体験をぜひもってほしいということなども、学校をお願いしているところです。そうしたことを引き続き続けていきながら、新しい中学校においても一人一人の子どもたちが、さきほど申しあげたような力をつけていて、成長してほしいなと考えているところです。

(発言者E)

ありがとうございました。ぜひ、よろしく願いしたいと思います。その中でも、子ども目線でも申しあげましたが、一方で先生も頑張ってもらっちゃると思うのですが、悪い言い方で言うと、あの先生だから良かったんだけど、あの

先生にあたったからちょっと学校に、そんなこともあったりして、先生の実力も人間ですからね、いろいろありますからね、そういうことも踏まえたときに、先生のお力もすごく大きいと思いますので、さきほどのご経験から教科で複数のチームで先生同士の実力アップとかありましたが、大規模校だったらできると思うのですが、教科ごとではなく、教科を超えたチームの編制の仕方もあると思いますので、いろんなことをやれるチャンスだと思うので、よろしくをお願いしたいと思います。
(発言者 F) 1点、さきほどから大規模、小規模というメリット、デメリットの話がありましたが、大規模になると生徒に声が行き届くとか、そういう多様性が確保できるのか、そういう問題があると思うのですが、基本構想に書いてありますが、地域との連携を推進できる場所の確保、地域との連携がキーポイントになってくると思うのですが、具体的にこのイメージは、現状の学校施設と比べて、どういうところを増やそうとしているのか、具体的なイメージをお聞かせ願いたいなと思います。
(教育長) 今、学校施設の貸し出しというと、体育館を夜とか、休みの日とかの貸し出しがあります。今は体育館施設だけですが、新しい学校の中では貸出もできる場所に地域の人が集まれるスペースを確保したいと思っています。各学校では学校運営協議会で地域の様々な分野の代表の方に来ていただいて、会議を開いています。そういった中で、校長が今年度はこういう方針で学校運営をしたいと説明して了承を得るものもありますし、あと、学校でこういうことをやっていきたいが、地域の方で協力願えないだろうかなど、いろいろな関わりをもっています。そうしたことが会議のときだけでなく、コーディネーターをする人もいますので、そうした人たちが集まって会議ができる、平日だと学校の会議室があると思いますが、休みのときとか校舎と切り離れた中で社会体育施設の中で部屋やスペースなどを取り入れられれば、より地域との連携等もやりやすくなるのかなと、1つの具体的なイメージとしては思っています。
(発言者 F) ありがとうございます。もう1点です。部活動の地域移行も並行して走っていると思いますが、それとの連携と言いますか、施設を流動化してそういったところまでも考えているのか。
(教育長) 部活動改革について、全国の動きとして行われていて、それぞれ具体的に市町村で取り組んでいる状況だと思います。寒河江市でも令和4年度からいろんな競技団体や各種団体の方からきていただいて、検討会議を開いています。具体的に土、日の活動の受け皿といいますか、やってくれるような地域クラブの設立を働きかけています。今、だいぶ多くの競技で地域クラブを作って、土曜日の活動とかを引き受けられるというクラブができています。 山形県としては、令和8年度からは、基本的には土日は部活動は行わないとしております。寒河江市では、今、申しあげました検討委員会や中学校の校長

先生と相談して、いきなり令和8年度というよりも、令和7年度の地区大会が終わった段階、また県大会出場チームはそれが終わった段階から基本的には土、日の部活動は行わないとしております。ということは、今まで学校の体育館とかは、土日も部活動で使っていたわけですが、今度、土日は部活動ではなく、地域クラブが活動したい場合には使用できるという形で考えております。

(発言者 F)

ありがとうございます。ぜひ、子どもたちの一人一人に目が届くようなところをベースにして、校舎がどうあるべきか、そういう視点で進めていただければと思います。ありがとうございました。

(発言者 A)

この問題はそもそも最初からおかしかった。地区の人たち、市内の人たちが誰も知らないうちに、学校統合問題という話し合いがでてきて、いきなり新聞にでて、地区の人が、寒河江で学校統合するんだと、誰も相談も何にもなかったわけです。話し合いも何にもないままで地区の人たちが知らない間に17人の方が相談をして、学校統合問題を始めたわけですね。そこから、ああだ、こうだと始まって、それは文部省からのいろんな問題があって、全国的に問題になっているから、寒河江もそうしようとなったかわかりませんが、17人という方の名簿をもっているわけですが、パブリックコメント、地区の人たちの意見を聞くという説明会があっちこちであって、それに行ったときには、ほとんど話や内容が決まっていて、三泉小学校が西根になるんだと、その説明、一生懸命質問するんですが、だいたいそういう方向に進んでいるんですみたいな話を聞いて、三泉の人は誰も知らなかったわけです。そういうことから始まったので、もう少し寒河江市全体の行政を考えるんだったら、地区の意見を聞いてから進めてほしかったなと考えるわけです。これからいくつ学校を建てるかわかりませんが、学校建てらんね、ほごさんね、病院も建てらんね、いったい税金がどれほどかかるか、市民も大変だなと思うわけです。これから一番基礎になる学校問題なんかを考えるときには、市民の意見を聞いてから進めていただきたい。新しい市長さんも統合のご意見だったようですし、別の方は中学校2つだったようですが、本当に寒河江のことを隅々まで考えていただきたい、この場には関係ないかもしれませんが。

それから、議員さんたちとの話し合いに参加してみたら、教育委員会と議員の会は横のつながりがあんまりなくて、別々の会ですと言われてびっくりしたんです。議員さんたちの中でこの問題が大変だと騒ぐ人はどれくらいいたんだろうかなと考えたら、誰もこういう問題でているのに、地区の人に説明する、そういう会が何にもなくて、議員さんたち何をやっているのかなと思って聞いたら、別々なもんだからおらだもしらねって、議員さんが言って、こういう人が寒河江を牛耳っていると思うとなさけなくなった。そういうことがないように、議員さんたちとの横のつながりももっていただきたいと思います。これは質問ではなく私の死ぬ前の意見です。

(教育長)

ご意見ありがとうございます。17人ということがありましたが、学校のあ

り方検討委員会を指していらっしゃるんだと思うのですが、あり方検討委員会の協議の中身につきましては、途中で新聞報道等もありましたが、あまり周知されていなかったということがございました。そういったことも踏まえまして、説明会等を開いて、ご意見を聞いて、大きなところも改定してきたところです。今、ありましたように今後については、こうした説明会、アンケート等を踏まえて、進めていきたいと思います。また、議員さん方との連携ですが、議員懇談会というのがありまして、その場で現在こういう状況で進んでおりますと、その都度、説明しております。また、議会等の一般質問でもだいたいやり取りもさせていただいており、議員さん方との情報の共有、そういったことも踏まえながらやっていきたいと思っております。ありがとうございます。